コロナ危機とＩＲカジノの終焉

横浜カジノ問題シンポジウム

アベノカジノの終焉

日時：2020年７月１９日(日）１４時～15時

場所：YouTubeチャンネル　ＪＣＰ横浜

静岡大学　鳥畑与一

今、何が起きているのか？

◆カジノ推進派の悲願達成目前かと思われた本年！

さかのぼれば99年**お台場カジノ構想**以来の悲願。挫折を繰り返してシンガポールの**ＩＲ**にかこつけた13年暮れの「**カジノ推進法**」提出から18年７月の「**カジノ整備法**」成立、そして昨年８月の**横浜市長の満を持した？カジノ宣言**！東京都の密かな準備、今年１月のカジノ管理委員会成立、いよいよ来年１月からの各自治体の立候補受付に向けてスパートと思われた矢先に・・・・

ＣＯＶＩＤ－１９パンデミックの襲来！

５月１３日　横浜ファースト！を叫んでいた**ラスベガスサンズ**が！！！

メルコの駅構内の宣伝物も消え、**ウィン**撤退の噂が流れ、大阪では**ＭＧＭ**の泣きが入り、和歌山でも有力カジノ事業者が蒸発し、残るは５００ドットコム並みの山師だけ？？？

実は、「ＩＲカジノ、お前はすでに死んでいる！」状態では？？？？

消えたあの言葉、あの成長戦略・・・だって衰退産業ですもの

① 観光の活性化

訪日外国人旅行者数を2020年に4000万人、2030年に6000万人とする目標等[47]を達成し、観光立国を実現するため、各省庁、民間、各地域が一体となって施策を実行する[48]。

まずは、外国人が真の意味で楽しめる仕様に変えるための環境を整備するため、多言語対応、Wi-Fi、キャッシュレス対応等に早急に取り組む。ＭａａＳ[49]の推進、宿泊施設の生産性向上や外国人人材の活用、宿泊施設等のバリアフリー化の促進とともに、非常時の外国人旅行者の安全・安心確保[50]を確実に実現する。

こうした整備と並行して、地域の新しい観光コンテンツの開発に取り組む。「日本博」[51]を全国で開催し国宝・重要文化財の展示・活用等を実施する。ＶＲ[52]の活用やLiving Historyの取組[53]等を推進する。国立公園の滞在環境の向上、自然体験コンテンツの充実、公的施設の更なる活用[54]等を図る。農泊らしい農家民宿や古民家の整備、農業体験などのコンテンツの充実を行う。城泊・寺泊、グランピングなどの体験型宿泊コンテンツの開発やスノーリゾートの活性化、旅館・ホテルの再生とともに、健全な民泊サービスの普及・拡大を図る。クルーズ旅客等の満足度向上とともに、自転車利用環境の創出、観光列車・サイクルトレインの導入、ダムなどのインフラや医療をいかした観光等を推進する。

外国人観光客の誘致に関して、日本政府観光局と地域（地方自治体・観光地域づくり法人[55]）の適切な役割分担と連携強化に向けて、地域の役割は着地整備が主であることを明確化し、その周知を図るとともに、日本政府観光局が各地域の情報・魅力を海外に一元的に発信することとし、そのための体制強化を図る。デジタルマーケティング技術[56]を活用した各地域へのコンサルティングを強化するとともに、グローバルキャンペーンを欧米豪だけでなく東アジア等にも強化し、中東・中南米などの新市場の開拓を推進する。

ビザの戦略的緩和や免税店の拡大を図る。顔認証システムの導入やＣＩＱ[57]の計画的な体制整備等による出入国の迅速化、空港の機能強化[58]、地方空港への直行便就航等を推進し、相互交流の拡大を図る。

持続可能な観光地づくりに向けた観光地の混雑対策等に取り組むとともに、広域周遊観光の推進、ナイトタイムの活性化等により、国内観光の一層の促進も図る。

国際競争力の高い魅力ある滞在型観光を実現するＩＲ[59]の整備を推進するため、特定複合観光施設区域整備法[60]に基づき、基本方針の策定等に着実に取り組む。カジノに対する様々な懸念に万全の対策を講ずるため、カジノ管理委員会を設立し、世界最高水準のカジノ規制を実施する。ギャンブル等依存症対策を徹底的かつ包括的に実施する[61]。

① 観光の活性化

ポストコロナ時代においてもインバウンドは大きな可能性があり、2030年に6000万人とする目標等の達成に向けて、観光先進国を実現するために官民一丸となって取り組む。

各国との人的交流回復までの時間を活用して、空港やＣＩＱ[50]など入口の整備、多言語表記などストレスフリーで観光できる環境整備、スノーリゾート整備や文化施設[51]・国立公園などの観光資源としての活用等、新たなコンテンツづくりに取り組む。高額な消費を行う旅行者をも念頭に宿泊施設の整備や経営内容の見直し、外国人接遇能力の向上、体験型アクティビティの更なる充実など着地整備を促す。

「**骨太方針**」枚数が80頁から39頁に削減されたのですが、

「**観光の活性化**」が
30行　⇒　７行　77％カット

それどころか**ＩＲ関係**は
４行　⇒　０行　**全面カット**

まるで黒川辞任で「国家公務員定年法」が取り下げられたような？

だってあの肝心のカジノ王が

Trump's Patron-in-Chief

Casino magnate Sheldon Adelson has never been more powerful. The Trump administration has advanced his ideological and financial interests, including an assist in his quest to build a casino in Japan.

◆5月13日の**撤退声明**

「日本におけるIR開発の枠組みでは私たちの目標達成は困難であると思われます。」「日本以外での成長機会に注力する予定です。」「現在、マカオとシンガポールで非常に大きな投資プログラムを実行し、既存のポートフォリオから有機的な成長を新たに生み出そうとしています。」

↑

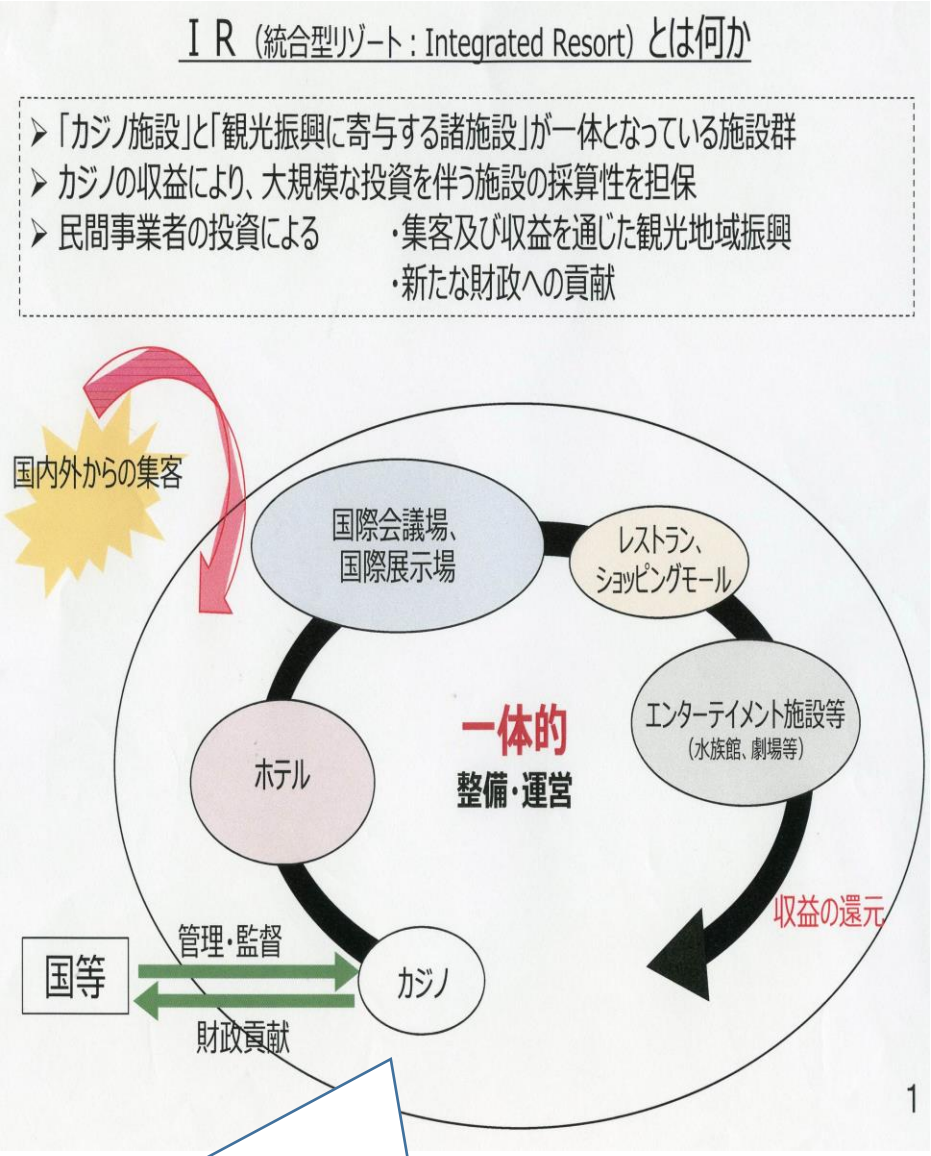
投資収益率20%以上が不可能になった！

儲けの9割稼ぐマカオとシンガポールの投資計画を維持するので精いっぱい

日本に100億ドル投資の魅力と余裕は喪失はもうありません！

日本進出を狙うアデルソンは、トランプ支援に2000万ドルを注ぎ込み、親密な関係を築き上げる。面会や電話で緊密な連絡を取り合う中で、**トランプ大統領は2017年2月に訪米中の安倍首相にラスベガスサンズを推奨**し、アデルソンはその後**「我々が日本進出のトップランナーだ」**と漏らす。

確認１　ＩＲ（統合型リゾート）カジノってどんな商売？



97％の魅惑的な非カジノ施設！カジノは３％以下！じゃなぜカジノは必要？

（１）刑法で禁止された賭博（ギャンブル隠し）のための経済効果の強調

①あくまで国際観光振興のＩＲ！

主役は、**ＭＩＣＥ**や娯楽施設！

②カジノ収益でＩＲが実現！

税金負担なしに建設運営できる！

③ＩＲの経済効果・公益性は抜群！

雇用や**税収**が地域活性化！

↓

カジノではない！家族みんなで楽しめる観光娯楽施設！！！！！

↓

だから**刑法の賭博罪**が適用されない！

世界最高水準のＩＲで100億ドル規模の投資が実現！

思い出しましょう！横浜IRとカジノ事業者の皮算用

◆林横浜市長の「白紙」からＩＲ(カジノ）推進への決断の根拠

→**カジノ事業者の「事業の見込み」(太字はおそらくLVサンズ)**

投資規模　6200～**13000億円、**ＩＲ内消費額　4500～**7400億円**

EBITDA(償却費・返済額込みの利益）800～**2100億円**(EBITDA率24％)

施設面積　67～**150ha**（３％の面積で2～**4.5万㎡**）

税収　820～**1200億円**（内訳未公表）

＊売上7400億円のカジノ比率80％でカジノ収益5920億円(税収888億円）。**市のカジノ税収1000億円ならカジノ収益6667億円**となる。これはシンガポールのマリナ・ベイ・サンズの３個分(4.5万㎡、65.3億ﾄﾞﾙ)に相当し、IR延床面積は150ha、スロット7500機、テーブル1830台が必要な規模 (事業者の見込みと一致。山下ふ頭47haで建ぺい率80％、容積率400％で150ha)

＊**100億ドル(約1兆円)の投資を、投資利益率20％で10年で回収するためにはEBIDTA3000億円が必要になるが、EBITDA30％とするとIR収益7500億円に相当する。巨大なカジノ収益の見込みが投資計画の大前提！**

(EBITDA:税引前利益に支払利息、減価償却費加えた利益)

（２）典型的な「三密」ビジネスの収益エンジンのカジノ

ＩＲ型カジノ：カジノの集客装置としての非カジノ施設の役割

①カジノの儲け還元（コンプ）で集客力を高める
②カジノ目的でない客も誘客し、カジノに誘導する
③客を負けるまで止めさせない、勝ち逃げを許さないことが儲けの秘密
④ギャンブル依存症状態に誘導するほど儲かる＆リピーター化の増大
　　＊年間4000万人超のラスベガスのカジノの儲けは6000億円程度！

＜ＩＲ型カジノのビジネスモデルと限界＞

①**人工物**：日本にしかない観光資源ではない：外国でも作れる
②**投資規模とコンプに依存した国際競争力**：投資力勝負の競争戦
③**巨大化する投資や維持費がカジノ収益に依存**：際限ないギャンブル漬け
④**顧客を貧しくすることでしか繁栄できない**：持続性乏しい焼き畑農業
⑤**依存症者拡大に依拠した収益構造：**観光のブランド力を破壊

巨大な地上施設に金をかけて集客し、施設内に閉じ込め、延々とギャンブル漬けにする、典型的なハコモノの三密のビジネスモデル

ギャンブルの中でも危険なカジノの仕組み

カジノ営業の仕組み及び代表的なゲーミングの種類

【カジノ営業の収益の仕組み】
カジノ側に確実な収益を保証する仕組み（ハウスエッジ（下記２通り））により、営業として儲けることが可能となる。
①ゲームのルールやゲーミングマシンにあらかじめ「胴元の有利さ」を組み込んでおき、ゲームが大量回数行われることにより、「大数の法則」を通じ、確率的に計算された期待収益額に近似した収益額をカジノ側が上げる方法
②顧客の賭け金の総体からカジノ側が最初に一定割合（控除率）を天引きし、残額を勝利者に払い戻す方法

名　称	ル ー ル 概　要	
ルーレット	数字及び色が付された38あるルーレットの目の中から、ボールが落ちる目の数字又は色を予想するゲーム。	
ブラックジャック	ディーラーとプレーヤーの勝負で、配られたカードの数字の合計数が21に近い方が勝利者となるゲーム。	
バカラ	直接勝負に参加するものではなく、バンカーとプレーヤーのうちどちらが勝つかを予想するゲーム。両者に配られたカードの合計数の下一桁の数字が９に近い方が勝ちとなる。	
大小	ディーラーによって振られる３つのサイコロの数字の合計数や組み合わせを予想するゲーム。	

儲けの仕組み　①**大数の法則**：ルーレットの場合は0と00の目が胴元の勝ちで5.4のハウスエッジ、②**コミッション料の徴収**、③**胴元(単独) vs顧客(多数)**で胴元が総負けする確率は低く、敗者の負け分も胴元の取り分になる

◆ギャンブルとしての共通性

偶然性に対して金品を賭け、報酬を獲得しようとする行為

◆競輪・競馬との違い

胴元が一定金額を徴収後に賭け客に分配　vs　**客と胴元が勝負**

↓

儲けの源泉：低率のハウスエッジ他

↓　（数％）

＊某カジノ王の恐怖

「**客が途中で賭けを止めること**」

→「デザインされた依存症」

頻度（常習性）、継続時間（一年365日）、密度(短時間で繰り返す)

賭け金額（射幸性の大きさ）

とにかく賭けを継続させる！

ＩＲ型カジノのビジネス手法　止めさせない、続けさせる！

◆カジノ収益の最大化のテクニック

①低いハウスエッジ：勝つ体験が多い

②ニアミス効果、ビジュアルな刺激
　勝っているように錯覚させる技法etc

③24時間、窓と時計の無い空間、アルコール等の無料提供

④賭け資金の貸付による提供

↓

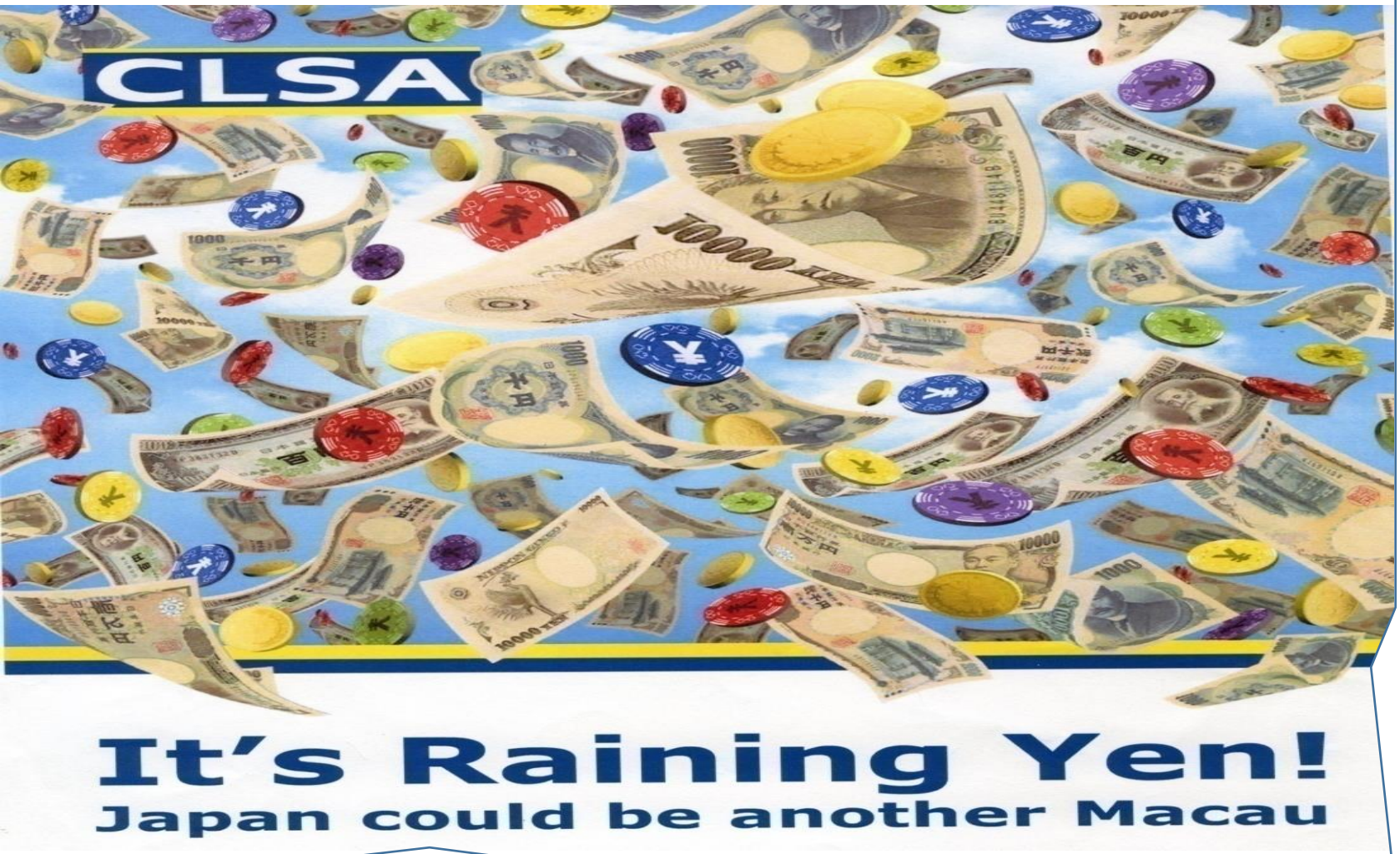
偶然性への賭けであり、勝つ快感が平等に繰り返され脳を刺激することで脳が変化していく病気の発症。ギャンブル依存症者に収益を依存したビジネスモデルと言われるカジノ

→**責任あるギャンブルの限界：個人責任ではない依存症！**

→**エンターテイメント一般と同列視できないギャンブルの特質**

「やめられない病気は数多くありますが、止められない度合いの強さと本人の人生上の破滅は言うに及ばず、周囲の人々をとことん苦しめる点においてやめられない病気の最悪のものは・・ギャンブル障害でしょう。」12頁

確認２　ＩＲカジノの収益性は崩壊したのでは？



12カ所のカジノでマカオ並みの稼ぎならば約２５０億ドルの儲けが生まれる！手始めに３カ所から・・・

それって天から雨のように降ってくるのか？

1999年の中国復帰（マカオの一国二制度）を利用したカジノ市場開放（SJMのカジノ独占打破）で生まれたマカオでの巨額利権！

03～19年カジノ収益累計は4096億ドル（45兆円）、課税後でも26兆円がカジノ独占の６社の利益となり、サンズは世界最大のカジノ企業に！

パンデミック下の海外カジノ市場の現状

表 コロナ感染の影響:マカオ　100万パタカと人

	カジノ収益			外国観光客数		
	19年	20年	前年比	19年	20年	前年比
1月	24,942	22,128	88.7%	3,425,126	2,850,465	83.2%
2月	25,370	3,104	12.2%	3,545,701	156,394	4.4%
3月	25,840	5,257	20.3%	3,888,931	212,311	5.5%
Q1	76,152	30,489	40.0%	10,859,758	3,219,170	29.6%
4月	23,588	754	3.2%	3,432,187	11,041	0.3%
5月	25,952	1,764	6.8%	3,396,835	16,133	0.5%
6月	23,812	716	3.0%	3,095,853	na	na
Q2	73,352	3,234	4.4%	6,829,022	27,174	0.4%
合計	149,504	33,723	22.6%	17,688,780	3,246,344	18.4%
ドル換算	18,716	4,222	22.6%			

資料:Gaming Inspection and Coordination Bureau Macao SARとDSECのデー

注:1MOP=0.12519USD(1ドル=7.988MOP)で計算

表 コロナとラスベガス　100万ドル

	3月	前年同月	比率	4月	前年同月	比率	5月	前年同月	比率
州全体	618.1	1,023.0	60.4%	3.6	936.5	0.4%	5.8	981.8	0.6%
LVストリップ	299.9	551.9	54.3%	3.4	481.9	0.7%	3.8	517.3	0.7%
旧中心地	43.5	58.7	74.1%	0.4	61.8	0.7%	2.0	54.8	3.6%

資料:NGCB　Nevada Gaming Revenue and Collections

シンガポールも4月～6月はカジノ閉鎖で、7月以降定員20％制限で再開。第2四半期決算はほぼゼロ収益となる！マカオも7月15日より二週間の隔離の緩和。米ネバダ州は6月4日より条件付きで営業再開

主要カジノ企業の業績悪化

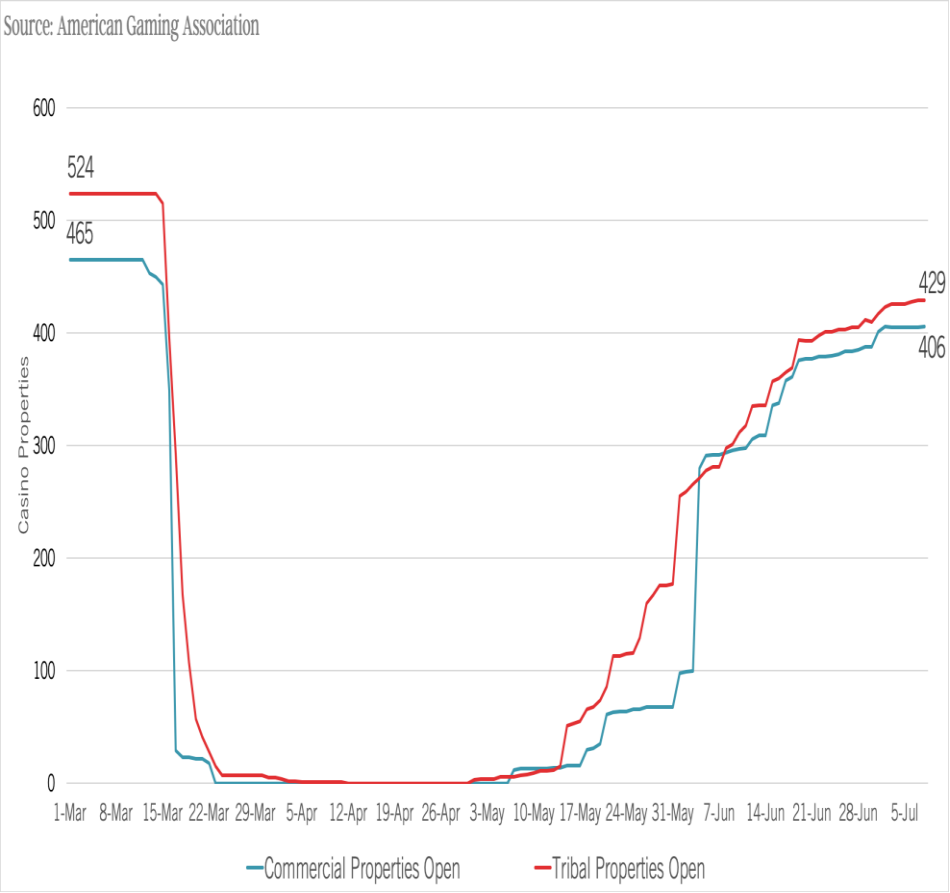


表　コロナ感染と主要カジノ企業の収益悪化　　100万ドル

	20年第1四半期	19年第1四半期	前年同月比	当期純益	EBITDA	手持ち資金	債務額
LV・Sands	**1,782**	3,646	48.9%	-51	437	2,618	12,253
Wynn	**954**	1,652	57.7%	-450	-5	2,881	13,281
MGM	**2,253**	3,177	70.9%	675	295	6,016	11,743
Melco	**811**	1,383	58.6%	-406	75	1,162	4,648
Galaxy	**654**	1,674	39.1%	na	37	6,128	5,676
SJM	**449**	1,117	40.2%	-53	-26	1,563	1,966
Genting	**407**	640	63.6%	na	147	na	na

資料：四半期決算報告書（10－Q)等

3月半ば以降カジノ閉鎖が一気に広がり、4月初めにはほぼ全てが閉鎖。感染防止体制の確立を条件に再開が増えているが、アトランティックなど主要カジノ市場で閉鎖状態継続も多く、再開されたところで感染者が増大している。感染対策の違反事例も続出。米国内の感染と被害の拡大の現状を見ると、この状況は長期化するという予想が格付け機関等の間に拡がって来ている。

営業再開後はV字回復は可能なのか？

◆マカオ

・外国観光客の入国禁止

・中国本土、香港、台湾も２週間以内の海外渡航者は禁止

・香港、台湾訪問者は２週間の観察。上記以外でも広東省・河南省・浙江省北京・上海など感染多発地域からは６～８時間の医学検査の実施

・感染対策でカジノ規制　　ソーシャルディスタンス確保

◆シンガポールは4月7日以降に閉鎖措置で、6月2日以降段階的規制緩和

第３段階(７月１日以降)　　安全対策の上でカジノ開業許可

定員の20%制限ほか

◆ラスベガス　4月21日　感染防止Plan作成の義務付け(再開7日前に提出)

CDCガイドラインに従った消毒等の防止対策／ソーシャルディスタンス手洗いの実行／テーブル：ブラックジャック3名、クラップス6名、ルーレットとポーカー4名以下。テーブル回りの密集防止／施設定員50％以下への客制限／展示会議関係では250名以上の集会の禁止。料理提供禁止　⇒　6月4日からの再開宣言

営業再開後も厳しい感染防止策のためフル稼働でも収益は半減必至

確認３　日本進出狙いのカジノ企業の現状　LVサンズの場合

表　ラスベガスサンズの利益配分と債務　　単位：百万ドル

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	累計
純収益	11,131	13,770	14,584	11,688	11,271	12,728	13,729	13,739	102,640
純益	1,882	2,955	3,588	2,386	2,025	3,263	2,951	3,304	22,353
株主還元	3,442	2,134	4,052	2,898	2,924	3,304	3,884	3,754	26,392
負債	13,505	13,224	13,341	12,445	12,973	13,060	15,802	16,692	3,187

資料：サンズ会計報告書（Form 10-K）

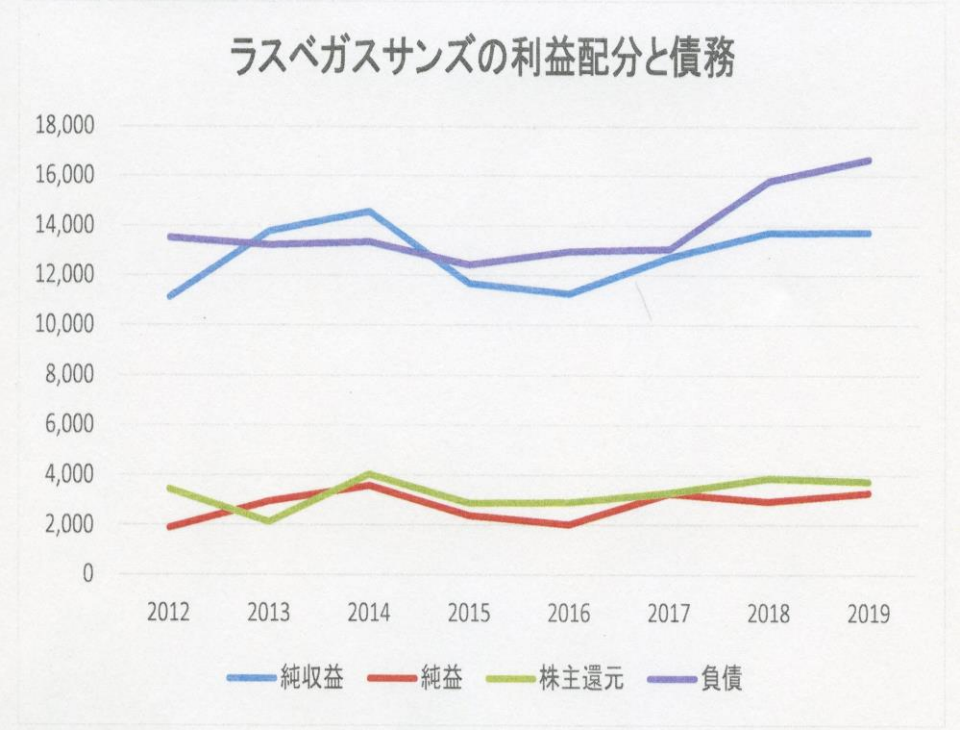


表 コロナ感染とLVサンズ　　100万ドル

		1月	2月	3月	1Q
マカオ	純収益	640	68	98	814
	EBITDA	209	-87	-55	67
シンガポール	純収益	286	195	130	612
	EBITDA	150	86	46	282
ラスベガス	純収益	153	137	75	400
	EBITDA	51	42	-5	88
合計	純収益	1,079	400	303	1,782
	EBITDA	410	41	-14	437

資料：Las Vegas Sands Form 10-Qより

現金	2,618
借入枠	3,932
手元資金	6,550
固定支出	**355**
現金／支出	7.4
手元／支出	18.5

億ドル

債務	123.0
現金	26.2
純債務	96.8
EBITDA	43.7
純債務／EBITDA	2.2

ＬＶサンズの格付けは**BBBマイナス**でカジノ企業の中では最上位。高収益であるが、純益以上の株主還元を行った結果、負債を増加させて来た。その経営を支えて来たのがマカオとシンガポールの高収益であるが、それが今消失した状況

サンズの債務返済と投資スケジュール

表　LVサンズの債務返済スケジュール

	2020	21-22	23-24	以降	合計
長期債務　LVSCシニアノート	0	0	1,750	2,250	4,000
SCLシニアノート	0	0	1,800	3,700	5,500
シンガポール信用枠	62	124	201	2,690	3,077
小計	**62**	**124**	**3,751**	**8,640**	**12,577**
金融リース	9	9	0	0	18
固定金利	417	824	742	727	2,710
変動金利	96	186	178	102	562
投資契約　営業リース	36	55	47	535	673
モール預託金	52	63	24	13	152
マカオ年額プレミアム	42	63	0	0	105
その他	147	136	70	191	544
合計	**861**	**1,460**	**4,812**	**10,208**	**17,341**

資料：Las Vegas Sands　Form10-K

表　ラスベガスサンズの債務返済と投資支出予定額　100万ドル

	2020	2021	2022	2023	2024
返済予定額	44	59	58	1,858	1,882
投資予定額	1,300	1,225	1,825	1,400	500
合計額	1,344	1,284	1,883	3,258	2,382

資料：Las Vegas Sands 1Q20　Earnings Call Presentation, April22,2020

債務は長期債務の他に金利支払いやリース債務を含めるとより大きくなる。さらに当面の返済額を先送りしているが、マカオとシンガポールでの「義務的」な投資予定額を含めると必要な資金量は毎年十数億ドルが必要となるので手元資金は一年持たない。

Melcoの場合

表 メルコの収益構造 100万ドル

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
純収益	2,642	3,831	4,078	5,087	4,802	3,975	4,519	5,285	5,189	5,737
カジノ	**2,551**	**3,679**	**3,935**	**4,941**	**4,654**	**3,767**	**4,177**	**4,938**	**4,497**	**4,977**
比率 カジノ	**96.6%**	**96.0%**	**96.5%**	**97.1%**	**96.9%**	**94.8%**	**92.4%**	**93.4%**	**86.7%**	**86.8%**
営業経費	2,549	3,386	3,571	4,247	4,117	3,876	4,156	4,680	4,575	4,989
一般管理経費	200	220	227	256	312	384	447	467	506	559
償却返還費	236	259	261	261	247	359	472	461	488	572
営業利益	**93**	**445**	**507**	**840**	**685**	**98**	**363**	**605**	**613**	**748**
金利費用	93	114	110	153	124	118	224	230	265	345
純益	**-11**	**289**	**399**	**578**	**527**	**-61**	**67**	**312**	**339**	**394**
EBITDA	49	881	995	1,379	1,285	932	1,088	1,423	1,486	1,689

資料 Form 20-F

メルコの資産負債構造 100万ドル

	2015	2016	2017	2018	2019
手元資金	1,611	1,702	1,437	1,472	1,395
総資産	10,262	9,340	9,151	9,122	9,488
短期債務	1,211	1,479	1,686	2,147	1,525
長期債務	3,815	3,720	3,558	4,061	4,394
総債務	5,330	5,517	5,561	6,150	6,345
自己資本	4,932	3,823	3,590	2,972	3,143

資料 Form 20-F

Free CF	1,467
配当	1,693
自社株	1,100

注：2011~17決算期

表 メルコの債務構造 100万ドル

	1年以内	1～3年	3～5年	5年以上	合計
長期債務	**0.2**	**851.1**	**600**	**3000**	**4451.3**
2017 Senior Notes	-	-	-	1000	1000
2019 Senior Notes	-	-	-	900	900
2016 Studio City Notes	-	850	-	-	850
2019 Studio City Notes	-	-	600	-	600
2019 Senior Notes	-	-	-	600	600
2019 Senior Notes	-	-	-	500	500
2015 Credit Facilities	0.2	1	-	-	1.2
2021 Studio City Credit F	-	0.1	-	-	0.1
金利支払い	**262.3**	**457.8**	**362.6**	**379.6**	**1462.3**
ファイナンス・リース	42.8	95.3	100	434.2	672.3
営業リース	33.8	38.6	15.5	99.6	187.5
投資義務	446.8	383.5	—	—	830.3
ライセンス料等	31.3	56.1	15.7	176.4	279.5
支払義務	**817.2**	**1882.4**	**1093.8**	**4089.8**	**7883.2**

資料：Annual Report 2019

急成長遂げて来たメルコは、収益以上の株主還元で債務増加の一方で手元資金を薄くしてきた。また実質的な債務額は80億ドル近い規模となる。4月に19億ドルの借入枠設定＆クラウン株売却で3.6億ドル調達で、1年は資金は持つとされるが(Moody's)

Melcoの場合

表　コロナとメルコ　　100万ドル

	19　1Q	19　4Q	20　1Q	前年同月比
営業収益	1,383	1,451	811	58.6%
カジノ	1,198	1,249	713	59.5%
比率	86.6%	86.1%	87.8%	
営業経費	1,192	1,277	961	80.6%
一般管理費	131	136	131	99.9%
減価償却	139	149	142	102.2%
営業利益	191	173	-150	
金利支払い	70	84	78	112.3%
税引前利益	126	82	-411	
最終損益	122	81	-407	
EBITDA	414	410	75	18.2%
手元流動性		1,395	1,163	83.4%
長期債務		4,394	4,684	106.6%
リース債務		262	259	98.9%
総債務		6,345	6,331	99.8%
株主資本		3,143	2,585	82.2%

資料　Form 6－K

◆2020年１Qの財務悪化　100万＄

手元流動性	**1218**
債務	4703
過去1年EBITDA	1147
Net Debt to EBITDA	3倍

＊14年～19年　株主還元　4049
　　純益　1578

メルコは、ゼロ収益シナリオのもとでのキャッシュバーンへの耐久度の推計は未公表。第２四半期はほぼゼロ収益となることは確実であり、その後の回復の見通しも暗い(儲けの8割をマカオに依存)。

<u>19年は償却費＋金利＋一般管理費で13億支出であり、本年の義務的返済8億ドルを加えると手元流動性は年内に枯渇</u>することになる。

新規資金調達に懸命だが・・・

Gentingの場合

表　シンガポールのカジノ収益の構成と推移 RWセントーサ　100万USドル

Resort World Sentosa	2010	2011	2013	2015	2017	2019
総収益	1,967	2,321	2,050	1,729	1,723	1,786
カジノ収益	1,698	1,939	1,573	1,259	1,144	1,166
カジノ比率	86.3%	83.6%	76.7%	72.8%	66.4%	65.3%
非カジノ収益	269	382	477	469	579	620
ホテル	na	na	na	na	160	162
アトラクション	na	na	na	na	293	337
その他	na	na	na	na	107	101
税引前利益	615	887	621	201	619	610
税	144	159	99	62	125	114
純益	27	734	510	139	494	496
EBITDA	1,022	1,204	834	659	829	857
EBITDA／総収益	51.9%	51.9%	40.7%	38.1%	48.1%	48.0%
配当金	0.0%	0	88	87	260	304
自社株購入	0	0	0	83	0	0
配当金／純益	0.0%	0.0%	17.3%	62.6%	52.6%	61.3%

資料：SandsとGentingのアニュアルレポートより作成

表　Gentingの対日投資シナリオ

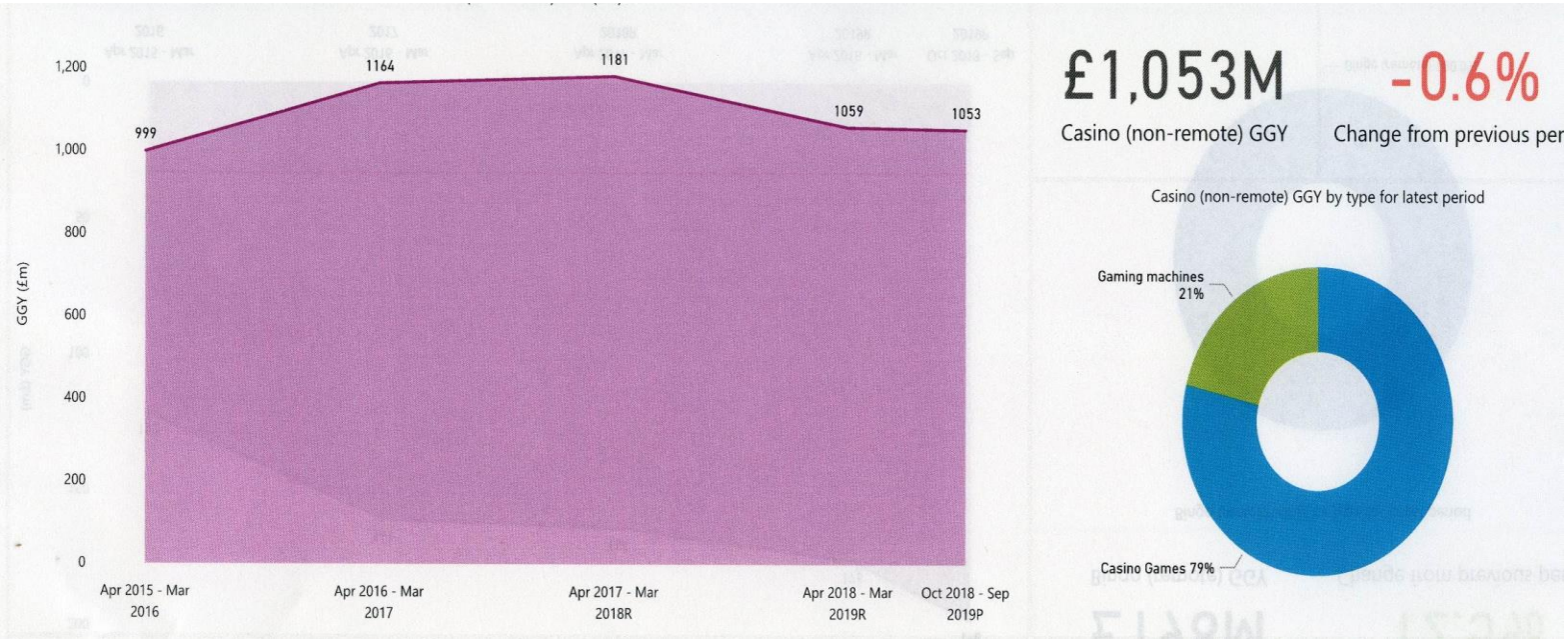
10億USドル	想定１	想定２
	シンガポール２IR初年度規模	マカオでの中国人並みの消費
総収入	6.1	8.1
カジノ収益	**4.3**	**5.7**
非カジノ収益	1.2	1.5
純収益	5.5	7.2
カジノ税	-1.8	-2.4
営業経費	-2.0	-2.7
EBITDA	1.6	2.1
EBITDA率	29.6%	29.6%
投資額	10.0	10
ROIC	**16.3%**	**21.4%**

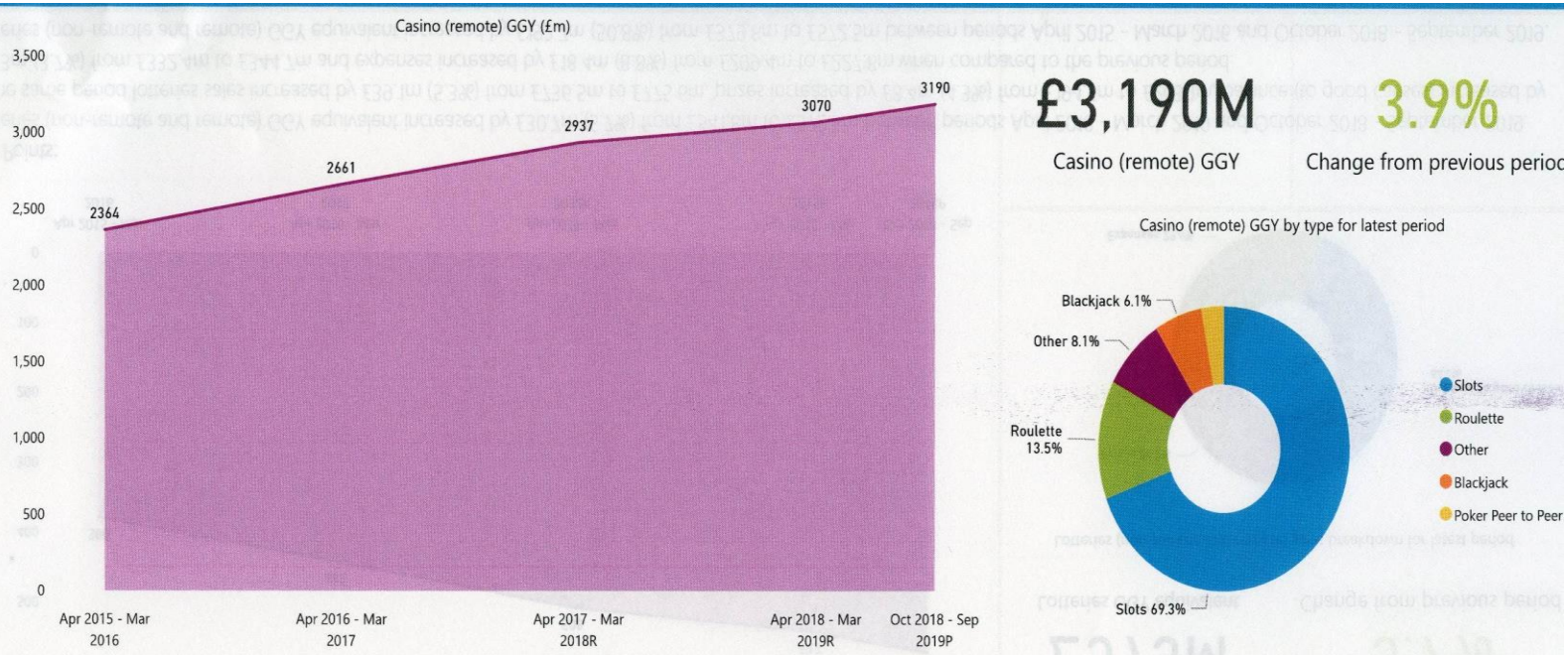
資料：Genting Singapore

注：大阪関西での立地を想定したものである。

剰余金18億ﾄﾞﾙに対して銀行借入2.2億ﾄﾞﾙ以下の優良企業で、格付けも投機的格付けではないが、収益18億ドル足らずのゲンティングには100億ドル規模の投資に対するハードルは高い。本年１月の臨時株主総会でのシナリオは、シンガポールとマカオ並みに儲かることが大前提！

世界で進むオンラインカジノへの移行が加速





英国では05年オンライン賭博合法化により、オンラインへの移行が進み、現在約39%のシェア。とりわけカジノではオンラインが圧倒的なシェアを占める。

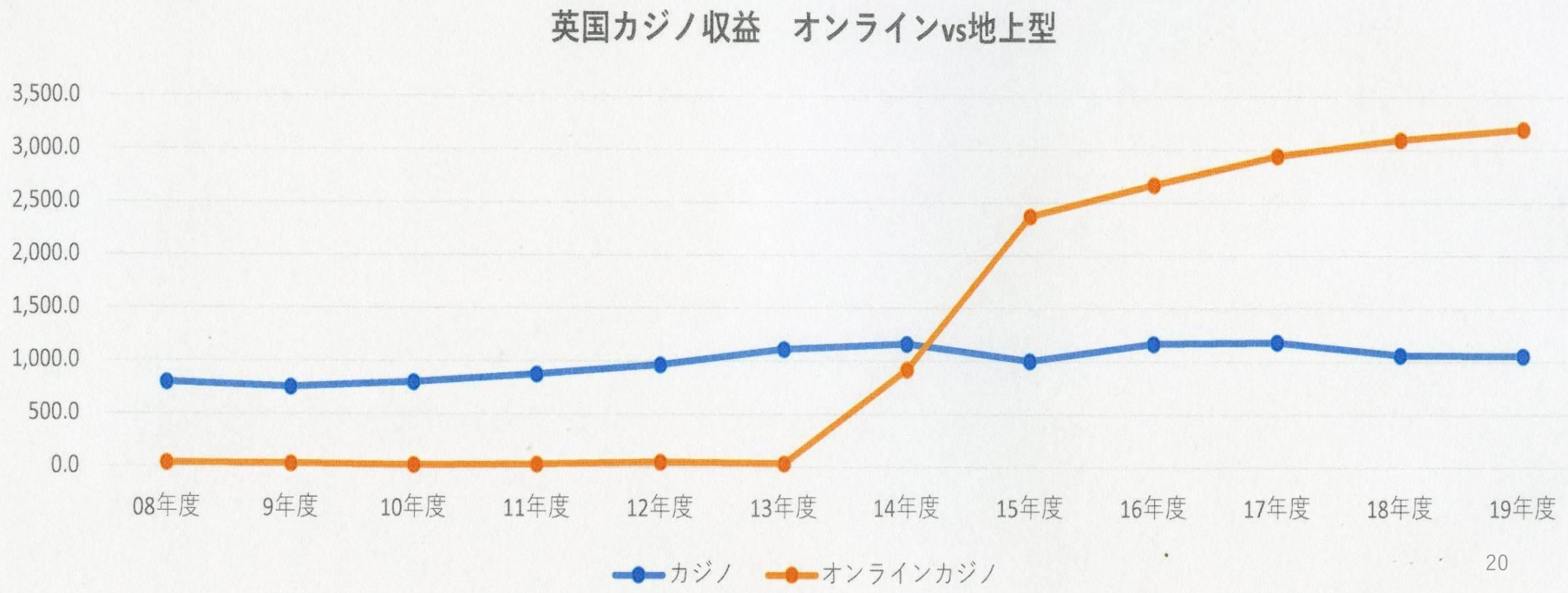
英国でのオンラインカジノの急増

表　英国　オンラインカジノの増大

100万ポンド

	08年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
カジノ	796.2	751.1	797.4	872.8	961.4	1,111.1	1,159.8	999.4	1,163.5	**1,180.7**	1,058.8	1,052.7
オンラインカジノ	33.1	23.0	12.7	20.2	42.5	27.5	915.4	2,364.4	2,661.0	2,937.0	3,090.0	**3,190.1**
全ギャンブル	8,364.9	8,115.6	8,435.7	9,026.8	9,704.7	9,868.6	11,313.8	13,456.1	13,779.8	**14,424.4**	14,330.4	14,261.4
比率　カジノ	9.5%	9.3%	9.5%	9.7%	9.9%	11.3%	10.3%	7.4%	8.4%	8.2%	7.4%	7.4%
オンライン	0.4%	0.3%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	8.1%	17.6%	19.3%	20.4%	21.6%	22.4%

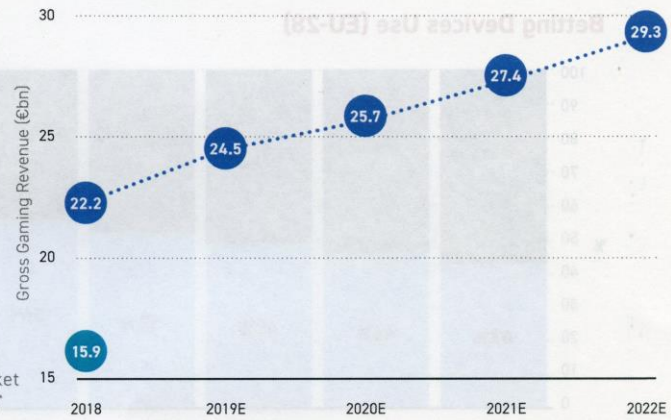
資料：英国Gambling Commission



世界の流れは？　欧州

Online Gambling Market (EU-28)

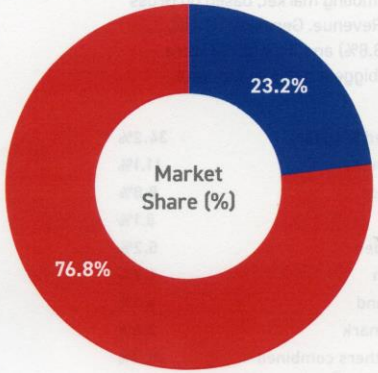
In 2018, the total EU-28 online gambling market generated €22.2bn in Gross Gaming Revenue, accounting for 49.2% of the total global online gambling market. The channelled market accounted for €15.9bn, reflecting a channelling rate of 71.7%.



* Online gambling activity which is "regulated in the same jurisdiction as the player," according to H2 Gambling Capital.
Source: H2 Gambling Capital (2019).

Gambling Market Shares (EU-28)

In 2018, online gambling had a total Gross Gaming Revenue of €22.2bn, accounting for 23.2% of the total EU-28 gambling market. Meanwhile, offline gambling (lotteries, casinos, bookmakers shops, etc) had a total Gross Gaming Revenue of €73.5bn, accounting for 76.8% of the overall EU-28 gambling market.

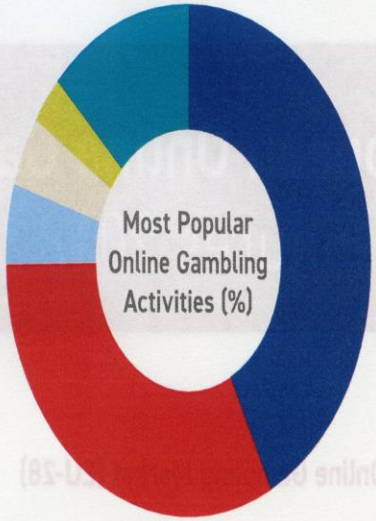


Source: H2 Gambling Capital (2019).

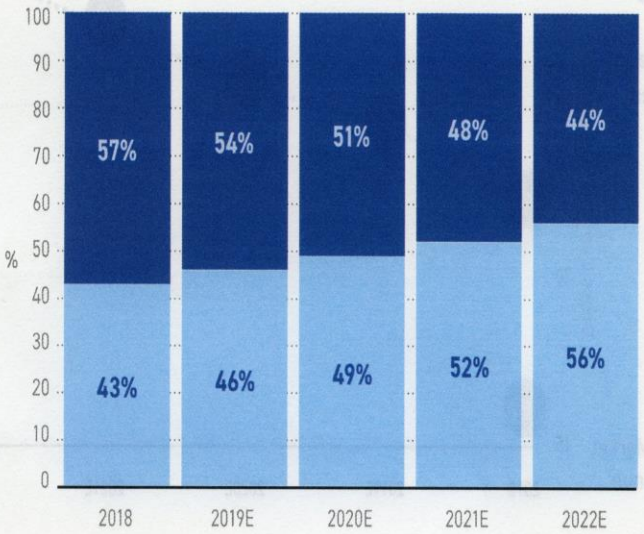
Most Popular Online Gambling Activities (EU-28)

Sports betting	42.5%
Casino	32.4%
Poker	5%
Bingo	4.3%
Other/Skill Gaming	3.2%
Lottery	12.6%

Source: H2 Gambling Capital (2019).



Betting Devices Use (EU-28)



In 2018, 57% of online bets were placed from a desktop computer, while 43% of online bets were placed from mobile devices.*

* Based on Gross Gaming Revenue.

Desktop
Mobile Devices (phones and tablets only)

Source: H2 Gambling Capital (2019).

スポーツ賭博が最大シェアであるが、米国でも2018年最高裁判決で合法とされ全米で合法化する州が急増。主要プロスポーツの協力で一大収益源に

終わりに　今後の展望

◆日本型ＩＲの制度設計の前提が崩壊したのではないか？

カジノの高収益で巨大なＩＲ施設を建設し運営するというスキーム

①来日外国観光客の激減：国際観光の回復の見通しは？

②日本の家計の疲弊：可処分所得や貯蓄、金融資産の減少

③中国経済の低迷で富裕層の行方は

④感染防止対策での稼働率の低下

⑤オンラインカジノへの移行

↓

巨大な地上型カジノに客を押し込んで24時間365日密集状態でギャンブル漬けにするビジネスモデルが衰退期に突入したのでは？

100億ドル規模の投資で投下収益率20％達成しつつ回収するのは不可能！

→投資規模を縮小し、カジノ税を引下げ、規制を緩和するか？

この場合は、日本型ＩＲのこれまでの議論や制度設計を根本から見直す必要がある。　**カジノ依存のＭＩＣＥ戦略からの脱却を！**

そもそも投機的格付けでしかないカジノ企業に、30年～40年の地域社会や日本経済の成長を委ねるというのは合理的な判断なのか？